

し込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。

5. 講演申込制限

- 1) 講演申し込みは**1人3件以内**といたします。
- 2) 連報講演は**原則として一講演会あたり3報まで**とします。

6. 申込方法 本誌会告末に添付の講演申込用紙ならびに**受領通知ハガキ**に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともに申し込み下さい。

7. 申込用紙の記載について

- 1) 申込用紙は(A),(B),(C)とも**太字欄**をのぞき**楷書**でご記入下さい。(申込用紙は、本誌**16号(12月号)**会告末に綴込まれております。
- 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、下記講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
- 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
- 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。

8. 申込の受理

下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。

- 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
- 2) 必要事項が記入されていない申込
- 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
- 4) 鉛筆書き原稿、文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当と認められるもの

9. 申込締切日 昭和**57年1月11日(月)17時**着信まで

申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。

10. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
(社) 日本鉄鋼協会 編集課 (電) 03-279-6021 (代)

講演分類

製 鉄		製 鋼				加 工							
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	還元鉄製造	合金鉄	製鉄耐火物	製鋼原料	製鋼基礎	溶解・精錬	鑄造	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食
加 工 ・ シ ス テ ム						材 料			分 析				
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25			
鑄造	粉末冶金	溶接	試験・検査技術	計測・制御	管理環境・情報	その他	基礎物性	組織	性質	分析			

第 103 回講演大会 (昭和 57 年春季)

ポスターセッション講演運営方法

発表形式の新しい試みとして 4 年間にわたり春の講演大会でポスターセッションを実施いたしましたところ、大変好評を博しました。そこで 57 年の春季大会ではポスターセッションを拡充・実施し、一層の成果をあげたいと存じます。

ポスターセッションとは何か? 講演者にはポスターをはる場所と長い時間を与え、聴講者には聴きたい講演の選択と時間を与え、個人の間の十分な触れ合いと意見交換ができるようにした新しい方式であります。

ポスターセッションはどのように運営されるか? 講演者には室内にポスターのはれる壁面の他に机 1 個が用意されます。発表時間は約 2 時間与えられます。1 名以上 (できれば 2 名) の講演者が必ずその場に居ることが必要であります。講演者は下記の注意を守る限り、ポスター、写真、試料、テープレコーダなど何を用いてもよく、聴講者はどのブースでも話を聴きあるいは討論することができます。

今大会でのポスターセッションの運営方法 今大会におきましては 30 ブース (総計 150 件) と規模を拡げて実施いたします。実施に当たりましては、特にポスターセッションとしての募集は行わず、講演申込 (締切昭和 57 年 1 月 11 日) に際し、講演申込書所定欄にポスターセッションへの参加の可否の意志を記入していただき、参加の意志を表示されたものならびに、意志の記入のないものの中から各分野 (製鉄・製鋼・加工 (計測, 管理を含む)・性質) ごとに 30 件程度を講演大会分科会で選定し、統一テーマのセッションとして実施いたします。 (従つてポスターセッションお断わりの場合は講演申込書の所定の欄にポスターセッションへの不参加の旨必ず記入して下さい。記入がなされていない場合はポスターセッションで講演していただく場合もあります。)

- (1) ポスターセッションと同一テーマの講演は並行して同じ時間帯では行いません。
- (2) 講演の前刷りは普通講演に準じます。
- (3) ポスターセッションの時間は次のようにいたします。

	ポスター 搬入展示	講演・討論	撤 去
午 前	9:00 ～10:00	10:00 ～12:00	12:00 ～12:30
	12:30 ～13:30	13:30 ～15:30	15:30 ～16:00
午 後	～13:30	～15:30	

- (4) ポスターを張る壁面は幅 1.8m×高さ 0.9m 1 面です。

ポスターは壁面に画鋲で張り、B 4 判の用紙を使いますと 12 枚が一度にはれます。(画鋲, セロテープなどは協会で準備いたします) ポスターを張る壁面の前に小机が用意されますので、サンプルや模型など小机の上に展示することもできます。

- (5) ポスターに書く文字は 2 m 離れてもみえる大きさとして下さい。ポスターはマジックインキによる手書で結構です。
- (6) 事務局にて壁面の上部に横書きで講演番号, 演題, 所属, 発表者を記しておきます。
- (7) ポスターは 1 枚ごとに左上に講演番号を記しておいて下さい。
- (8) 講演者には胸につける名札をさし上げますので講演中つけて下さい。
- (9) スライドは使用できません。

〔ポスターセッション会場〕

- (1) 会場は東京工業大学長津田キャンパスか又は大岡山キャンパスとなります。
- (2) 長津田キャンパスは討論会・一般講演会場 (大岡山キャンパス) から東急大井町線・田園都市線で 50 分離れた地区となります。
(大井町線大岡山乗車, 二子玉川園乗りかえ田園都市線 “すずかけ台” 下車徒歩 5 分)

日本鉄鋼協会昭和 56 年度臨時総会報告

日 時 昭和 56 年 11 月 1 日 (日) 9:30~9:50
 会 場 京都府中小企業会館会議室
 議 案 定款中一部変更に関する件

定 款 中 一 部 変 更 案

定款中一部を次の通り変更する。

第 11 条 (正会員に関する規定) 中入会金 800 円とあるを 900 円に、会費年額 8,000 円とあるを 9,000 円に変更する。

第 12 条 (学生会員に関する規定) 中会費年額 2,000 円とあるを 3,000 円に変更する。

第 13 条 (外国会員に関する規定) 中入会金 600 円とあるを 800 円に、会費年額 6,000 円とあるを 8,000 円に変更する。

付則として、「この定款の変更は、文部大臣の認可のあつた日から施行し昭和 57 年 1 月 1 日から適用する」を加える。

以上満場一致にて可決した。

(変更定款)

第 11 条 正会員は、理事会の承認を経て入会するものまたは団体であつて、入会金 900 円および会費年額 9,000 円を納めるものとする。

第 12 条 学生会員は、理事会の承認を経て入会する学生であつて、会費年額 3,000 円を納めるものとする。

第 13 条 外国会員は、理事会の承認を経て入会する外国在住のものまたは団体であつて、入会金 800 円および会費年額 8,000 円を納めるものとする。

会費等納入についてのお願い

昭和 57 年分会費等の納入期が近づきました。本会の事業は会費を主な財源として行われますので、会費は毎年 12 月に 1 年分を前納していただくことになっております。別送の郵便振替用紙にてお払込み下さいますようお願いいたします。

会員団体所属の会員にあつては幹事宛お支払い下さい。

記

	会費年額	入会金
正会員	9,000 円 (従前 8,000 円)	900 円 (従前 800 円)
学生会員	3,000 円 (〃 2,000 円)	0 円 変更なし
外国会員	8,000 円 (〃 6,000 円)	800 円 (従前 600 円)

鉄と鋼および Trans. ISIJ の両誌購読の追加特別料金は 4,000 円と変更ありません。

宛先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
 社団法人 日 本 鉄 鋼 協 会

永年会員の特典について

当協会在籍 40 年以上かつ満 71 才以上の正会員はお申出により会費免除となりますので、庶務課までご連絡下さい。

第 80・81 回西山記念技術講座

—— 製鉄業における省エネルギー技術の進歩 ——

主催 日本鉄鋼協会

第 80・81 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内いたします。

I 期 日 第 80 回 昭和 57 年 2 月 25 日(木), 26 日(金)

八幡 北九州市勤労者会館ホール (北九州市八幡東区中央 2-1-1 TEL 093-661-7334)

第 81 回 昭和 57 年 3 月 10 日(水), 11 日(木)

東京 農協ホール (千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-0311)

II 仮題ならびに講師

第 1 日	10:00~11:30	省エネルギーの考え方の基礎	東京大学工学部	平田 賢
	12:30~15:40	鉄鋼業におけるエネルギー構造の将来像 I, II	新日本製鉄(株)堺製鉄所	中川 侃
			住友金属工業(株)本社	山本 哲也
第 2 日	9:30~11:00	中低温排ガス顕熱回収技術	新日本製鉄(株)本社	村田 裕司
	11:10~12:40	固体顕熱回収技術	川崎製鉄(株)本社	陣野 友久
	13:30~15:00	耐火断熱材とその応用	イソライト工業(株)	堀江 鋭二
	15:10~16:40	鉄鋼業を中心とした熱交換器の進歩と今後の展望	大倉エンジニアリング(株)	斉田 圭司

III 講演内容

1) 省エネルギーの考え方の基礎 平田 賢

日本は、高価な代金を払って輸入した一次エネルギーを、すべて燃やしてしまい、高温の熱にしてから利用が始まる。この熱が常温の熱となつて、その一生を終えるまで、エネルギーは高温から低温へと流れ、不可逆である。熱は温度が下つてしまえば終りであるから、温度が下らないうちに、高温から低温まで使いつくさねばならない。「省エネルギー」というと、すぐ廃熱回収という。温度の下つてしまつた廃熱の回収も大切だが、日本でむしろ最も欠落しているのは、2000°C から 500°C ぐらいまでの高温部の熱回収である。どのようにすればよいか。基本的な考え方を述べたい。

2) 鉄鋼業におけるエネルギー構造の将来像 I, II 中川 侃, 山本 哲也

粗鋼 800 万 t/y のモデル製鉄所を設定し、その中で各部門の現状からみた基準原単位。更に省エネを進めた場合の限界原単位を推算し、製鉄所全体のエネルギーバランスを試算した。その結果限界のバランスにおいては副生ガスの余剰を生じるので、今後のエネルギー対策として、電力、副生ガスなどの外販、及び自己完結志向の高炉への微粉炭、又は C ガス吹込みなど、エネルギー的に柔軟な体制確立と技術開発の必要性のあることを示す。

3) 中低温排ガス顕熱回収技術 村田 裕司

4) 固体顕熱回収技術 陣野 友久

鉄鋼プロセスにおける排熱の中でも、特にコークス、焼結鉱、スラグ、その他成品顕熱など固体の保有する熱量は、その量、温度レベルにおいても主要なウエイトを占めている。

これら固体顕熱の回収と有効利用は、鉄鋼業における今後の省エネルギー対策の主要な項目であり、今回、鉄鋼業における固体顕熱の実態と熱回収の現状および今後の課題についてまとめた。

5) 耐火断熱材とその応用 堀江 鋭二

省エネルギー技術の一つとして、耐火断熱材による熱エネルギーの節約を、耐火断熱材の種類、性能(耐火断熱れんが、セラミックファイバーおよびその複合材料、その他)使用方法(断熱に対する考え方、構造施工方法)用途(鉄鋼関連設備における実例および他産業における参考例)の面より述べ、耐火断熱材の今後の方向についても言及する。

6) 鉄鋼業を中心とした熱交換器の進歩と今後の展望 斉田 圭司

我国の製鉄業においては、30 年程前から工業炉の付備設備として熱交換器は利用されて来た。しかしながらこれらの熱交換器は本来一部の限られた工業炉の細やかな補助設備に過ぎなかつた。ところが昭和 48 年の石油危機以来の度重なる燃料価格の高騰から、省エネが最優先の合理化項目になるに伴い、省エネ設備の一部門をなす廃熱回収用熱交換器もその利用範囲の拡大、性能の高効率化が急速に進められるようになった。

IV 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 4,500 円

VI 問合せ先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

昭和 57 年秋季 (第 104 回) 講演大会討論会

討 論 講 演 募 集

昭和 57 年秋季 (第 104 回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮つてご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

I. 高炉内の珪素の挙動 座長 徳田 昌則

高炉の低珪素操業の意義は製鉄側からも製鋼側からも定着し、低珪素操業技術確立への努力は重油吹込み操業から重油を吹込まない操業への転換という大きな節目も乗り越えて、着々と積み重ねられてきた。その過程で、低珪素操業が溶銑品質の安定化に寄与し得ることも指摘されている。一方、変動するエネルギー・経済環境は多様な操業形態に対応し得る制御技術の確立を促している。本討論会では、これらの成果や問題を標題の観点から整理し、さらに最近の基礎研究の成果を組みこんで討議を深めたい。積極的な参加を期待する。

II. 連鑄鑄片の品質と鋼の高温における力学的特性 座長 森 勉

我国の連鑄操業技術の進歩には著しいものがあり、春秋の講演大会でも、連鑄に関する沢山の研究が発表されている。このような研究成果、その発表のもたらす効果をさらに実り多いものとするため、時間を十分にかけ議論し、意見の交換を行う討論会を企画した。とりあげるテーマは、主として、鋼の凝固過程と冷却中の力学的性質及び組織と変形破壊挙動との関連、実操業時の欠陥(割れ等)の発生やその機構、そして今後いかなる研究を行つて連鑄技術をおし進めるべきかの問題である。多方面からの発表と活発な討論を期待する。

III. 継目無鋼管の製造技術の動向 座長 田中 孝秀

継目無鋼管の製造法については、PPM、MPM などの出現による進歩がみられ、また穿孔、圧延など個々の技術についても、モデル・ミルによる研究、あるいは実機における技術の改善が行われており、従来やや停滞気味であったこの分野も、近年新しい技術の開発が顕著に進みつつあると思われまふ。

今回は、熱間圧延製造法に限定して、その製造技術、圧延技術にわたる分野の論文発表と討論をお願いします。

IV. 鋼の腐食の確率論的評価 座長 増子 昇

孔食やすき間腐食などの局部腐食現象や鋼材の環境強度に対する確率論的評価に関しては我国の研究が世界に先馳けて進展しており、最近種々の実用例が発表されるようになって来た。信頼性工学の手法を導入した材料の寿命予測が腐食の分野でも注目されるようになってきたということは、材料使用技術の向上に大きな貢献をするものといえる。この機会に現在の到達点を確認し、将来の飛躍のための足場を築くこととしたい。広い視野からの発表と討論を期待する。

V. 制御圧延・制御冷却をめぐる諸問題 座長 田中 智夫

Nb 含有鋼についての制御圧延の理論と実際は“Microalloying 75”(1975 年に Washington D. C. で開催)で集大成されたとみてよい。しかしその後の制御圧延の発展は目覚しく、この技術が Nb を含まない造船用鋼、低温用鋼等に適用されるにとどまらず、フェライト・マルテンサイト 2 相組織鋼に適用され、新しい鋼種を生み出しつつある。さらには制御圧延効果を一層有効ならしめるために制御圧延と制御冷却の結合が現実化して新しいプロセス、新しい成分体系が確立されつつある。このような状況を背景に今日の制御圧延技術と今後の動向を検討するために討論会を持つことはたいへん有意義である。本討論会では、制御圧延と制御冷却の相補性、制御圧延と制御冷却の重畳による材質の向上、適用範囲の拡大、新しいプロセス、新鋼種の展開等を中心テーマとしたい。またこれに関連した基礎的な研究成果の発表を期待するものである。

2. 申込締切日 昭和 57 年 2 月 12 日 (金)

3. 申込方法 討論会参加ご希望の方は討論会申込書を下記までご請求下さい。申込用紙には必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷原稿締切日 昭和 57 年 5 月 14 日 (金)

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 68 年第 9 号 (昭和 57 年 7 月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 68 年第 10 号 (8 月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の
公募締切日 昭和 57 年 9 月末日
前記 10 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。
申込先：100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

「第 7 回真空冶金国際会議」開催のお知らせ及び論文募集

The Seventh International Conference on Vacuum Metallurgy (7th ICVM)

主催 (社)日本鉄鋼協会 共催 (社)日本金属学会・日本真空協会

1. テーマ Special meltings and metallurgical coatings
2. トピックス Special meltings: ladle metallurgy (vacuum and/or non-vacuum), cf. VOD, AOD, VAD, RHOB, DH and etc., ESR, vacuum melting and plasma melting in ferrous and non-ferrous metallurgy, powder making and sintering of powder materials under vacuum or controlled atmosphere, etc.
Metallurgical coatings: Preparation Techniques (Vacuum Evaporation, Sputtering, Diffusion Coating, Plasma Processes, etc.), Characterization and Properties, Applications in Machine Tools, Metallization, Electronics (Epitaxy, Passivation, Electromigration, Superconductor, etc.), Energy Conversion and Tribology, Plasma Wall Interactions, Solar Batteries, etc.
3. 開催日 1982 年 (昭和 57 年) 11 月 26 日(金)～12 月 2 日(木)
4. 場所 経団連会館 (東京 大手町)
5. 会議用語 論文発表, 討論とも英語 (通訳はつきません)
1. 参加費 約 4 万円
(テキスト代, パーティー代を含みます。食費, 工場見学等の費用は含みません。なお, この参加費につきましては実行委員会ですらに検討中ですので, 今後変更される可能性がございます。最終的には 1982 年 4 月に発行予定の本国際会議 3rd circular にてお知らせいたしますので, それ以前のお支払いはご遠慮下さい。)
7. 論文発表の申し込み方法
 - ① 上記 2 のトピックスの項目に該当する内容の論文でしたらどなたでもお申し込みいただけます。
 - ② 会議の 2nd circular に申し込み票がとじこみになっていますので, 2nd circular を事務局宛ご請求下さい。無料でお送りいたします。
 - ③ 英文約 500 語のアブストラクト提出: 1982 年 1 月 31 日締切
アブストラクトの審査後, 最終原稿の執筆をお願いいたします。
 - ④ 英文最終原稿提出: 1982 年 7 月 10 日締切
最終原稿は, 会議当日配付の Proceedings に掲載されます。(オフセット印刷)
8. 会議参加の申し込み方法 (論文発表者も同様の手続きをして下さい)
3rd circular (1982 年 4 月発行予定) に, 参加申し込み用紙がとじこみになりますので, その用紙にてお申し込み下さい。資格は問いません。
9. 問合せ先
上記申し込みのお問い合わせ, 2nd circular のご請求等は下記宛お願いいたします。circular はご希望のかたに無料でお送りいたします。

〒100 千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
(社) 日本鉄鋼協会 国際課 (ICVM担当) TEL (03) 279-6021 内線 24

日本鉄鋼標準試料講習会

主催 日本鉄鋼協会鉄鋼標準試料委員会

当委員会では日本鉄鋼標準試料（JSS）を正しく理解していただくための講習会を下記のとおり開催いたします。多数ご来聴下さいますようご案内申し上げます。

I 日 時 昭和 57 年 2 月 4 日 (木)

東京 経団連会館クリスタルルーム (千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-1411)

昭和 57 年 2 月 10 日 (水)

大阪 科学技術センター 401 号 (大阪市西区靱本町 1-8-4 TEL 06-443-5321)

II 演題ならびに講師

9:30~10:00	日本鉄鋼標準試料について	委員長	川 村 和 郎
10:00~11:00	日本鉄鋼標準試料ができるまで	幹 事	大 槻 孝 一
11:00~12:00	化学分析用標準試料の選び方と使い方	委 員	針間矢 宣 一
13:00~14:00	炭化物系介在物抽出分離定量用標準試料の使い方	委 員	成 田 貴 一
14:00~15:00	機器分析用標準試料の使い方	委 員	真 鍋 浩 一
15:10~16:10	ユーザー側から見た機器分析用標準試料	特別講師	島津製作所 小 野 準 一
16:10~17:00	質疑応答		

III 講演内容

(1) 日本鉄鋼標準試料について 川村 和郎

JSS は JIS に準拠した鉄鋼標準試料であり、JIS 鉄鋼化学分析方法は我が国の鉄鋼業界の分析部門が共同実験を通じて常に最新の技術を採用した原案に基づいている。国際的には、ISO の場に共同実験試料として提供し、その信頼性を検証している。このように世界的に高い評価を得つつある JSS の特色を例を挙げて説明し、更に今後の課題について反省する。

(2) 日本鉄鋼標準試料ができるまで 大槻 孝一

JSS は、日本鉄鋼協会鉄鋼標準試料委員会が同委員会規程に基づいて製造し、頒布しているものである。現在取扱い品種数は 355 種 (うちリース制のもの 166 種) にのぼっている。これらの素材の製造及び分析は委員参加事業所が分担し、共同で行い、試料はよく管理された工場で一括して調製し、分析データは JIS に準拠して解析し、分析技術的判断を加えながら専門的な委員の合意で標準値を決定している。その実際について具体的に述べる。

(3) 化学分析用標準試料の選び方と使い方 針間矢 宣一

世はまさに機器分析時代、鉄鋼分析技術の発展は機器の進歩に負うところが大きい、相対的な分析法である機器分析法が発達すれば、その基準となる湿式化学分析法の必要性、重要性が強く叫ばれてくる。

しかし、その湿式化学分析法も管理状態に保たれ、精度及び正確さに信頼性が保たれていることが前提となる。

その湿式化学分析法の管理状態を保持するため、鉄鋼標準試料をいかに活用すべきか、標準試料の選び方や使い方について述べる。

(4) 炭化物系介在物抽出分離定量用標準試料の使い方 成田 貴一

今日では鋼中の介在物・析出物の分析は鋼材の性質に関する研究においては不可欠なものとなっているが、ここでは主に定電位電解法による鋼中炭化物の抽出分離定量における抽出分離技術の向上、精度・正確さの管理ならびに抽出分離定量法の標準化などの立場より標準試料の必要性、用途および使用上の注意点について述べる。

(5) 機器分析用標準試料の使い方 真鍋 浩一

機器分析を行うに際し、検量線の作成、共存元素の影響の確認、標準化、精度・正確度管理等の各段階における標準試料の役割および具備すべき条件等について述べる。更に現実の標準試料の使用上の注意点およびその対策例として、組織(冶金的履歴)、介在物(存在形態)の影響について、主に発光分光分析方法について述べる。

(6) ユーザー側から見た機器分析用標準試料 小野 準一

一般に機器分析では、標準試料を用いての比較分析の形をとる必要がある。それゆえ標準試料の良否、適不適は機器分析を行う上で重要な問題である。その意味で機器の特性と標準試料の関係について良く理解しておくことは正しい分析を行う上で大切である。ここでは日本鉄鋼標準試料が最も多く利用されているスパーク発光分析を中心に、機器のどの部分が標準試料で作られる検量線と重要な関係を持つているかについて述べる。

IV 聴講無料

V テキスト代 3000 円……当日会場受付にてお買求め下さい

VI 申込み先 〒100 千代田区大手町 1-9-4 経団連会館

日本鉄鋼協会鉄鋼標準試料委員会 桑原 TEL 03-279-6021

別記様式 (N318 ページ) により、来る 昭和 57 年 1 月 20 日 までにお申し込み下さい

第2回 圧延国際会議案内

1980年9月に東京で行われました圧延国際会議(板圧延)に引きつづき第2回圧延国際会議がドイツで開催されることになりました。主催者から次のような開催案内が届きましたのでお知らせいたします。

1. 会議名: 2nd International Conference on Steel Rolling 1983

Hot Rolling of Long Products
(Semi-finished products, sections, merchant bars, wire rods, universal beams, a. o.)

2. 開催年月日・場所: 1983年5月16日～18日,

デュッセルドルフ(西ドイツ)

3. 主催団体: Verein Deutscher Eisenhüttenleute-VDEh, Germany

Centre de Recherches Métallurgiques-CRM, Belgium

4. 同時開催: The professional Fair of Metallurgy METEC 1983 (5月14日～20日)

5. 会議用語: 英語, 仏語及び独語(この3カ国語の同時通訳がつかます)

6. 工場見学: 見学先の工場(steel plants)については, 会議のプログラム(1982年12月頃発行予定)でお知らせします。

7. レディスプログラム: 会議参加者に同伴の婦人のためのレディスプログラムがあります。

8. 会議参加申し込み: 参加申し込みの詳細については, 1982年12月頃お知らせします。

9. 論文提出について:

① 下記a～eのトピックスに該当する内容の論文提出を受けつけます。

② 英, 仏, 独語のいずれかで500～1000語のアブストラクト(2部)を1982年2月末日までに(社)日本鉄鋼協会宛お送り下さい。鉄鋼協会から主催者のVDEhへ転送いたします。このアブストラクトは主催者による審査を受け, 採用された論文の著者宛に, 1982年5月中に通知と最終原稿の執筆要項が送られます。

③ 最終原稿は1982年10月1日までにVDEh宛直接お送り下さい。この最終原稿は会議の前に“report volumes”として印刷され, 参加者に配付されます。

④ 会議当日は討論を主とするため, 論文の要約版が配付されます。

⑤ 会議終了後“討議集”が発行され, 各出席者に送付されます。

10. トピックス

All papers should not put forward any theories, but describe operating experience at iron and steel works. Only original reports on the following topics will be accepted.

a) Steel behaviour during rolling in groove mills and identification of the processes in the roll gap (applied research and practical application) - flow of material, spread, stretching, groove rows, computer-aided roll drafting.

b) Requirements to the material to be rolled in the groove mill and construction concepts for she hot rolling of base and special steels - dimensions, use of continuous casting products, longitudinally divided roughed slabs, ingot castings, preliminary profiled sizes, surface configuration, surface processing, separation, heating, deformation in one or two heats. Types of rolling mills and of installations for special rolling processes - accessories, roll storage, materials for rolling mill rolls, processing, use, cooling, lubrication and storekeeping of the rolls.

c) Measurements and automation in the rolling mills and arrangements - testing, controlling, regulating, tracking of the material, marking of the rolled products, stacking, packaging and transport.

d) Influence of the deformation, of the heat treatment and of the thermodynamic treatment on the properties of the rolled products.

e) Optimization strategies. Increase of capacity, production improvement, energy consumption, dimensional and formal precision, quality improvement.

11. アブストラクト送付先(1982年2月末日締切)/その他お問い合わせは:

〒100 千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
(社)日本鉄鋼協会 国際課(圧延1983担当宛)
TEL (03) 279-6021 内線 24

12. 最終原稿送付先(1982年10月1日締切)/又, 詳しい資料の請求は:

the organizing committee
2nd International Conf. on Steel Rolling 1983
Verein Deutscher Eisenhüttenleute (VDEh)
D-4000 Düsseldorf 1
Postfach 8209
GERMANY
telephone: 0211/8894.1 telex: 8582512

マルテンサイト国際会議 (ICOMAT-82)

御案内

開催日：1982年8月9日～12日

開催場所：ベルギー，Leuven

発表論文募集概要

アブストラクト提出締切：1982年1月15日

発表可否通知：1982年3月1日

論文提出締切(6ページ)：1982年5月15日

使用言語：英語

アブストラクト発送先，サーキュラー請求先

Prof. L. Delaey

Department Metaalkunde

Katholieke Universiteit

Leuven

de Croylaan 2

B-3030 Heverlee

Leuven

Belgium

問合せ先：京都大学工学部金属 田村今男

圧延潤滑シンポジウムの開催

主催：日本潤滑学会 協賛：日本鉄鋼協会，ほか

開催日 昭和57年2月4日(木) 9:30～17:00

会場 機械振興会館地下2階ホール

東京都港区芝公園 3-5-8 電話 03-434-8211

プログラム

冷間圧延潤滑

- | | |
|-----------------------------|----------|
| 1) 油性向上剤の応用 | 住金 間瀬 俊朗 |
| 2) 評価方法とその応用 | 川鉄 伊東 紘一 |
| 3) 連铸材圧延時のロール摩耗 | 鋼管 鍛本 紘 |
| 4) ミルクリーニング性を有する極薄鋼板用圧延油の開發 | 神鋼 伴 誠二 |

冷間圧延油

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1) 鋼板表面清浄性に及ぼす冷間圧延油の影響 | 大同化学 瀬本 正三 |
| 2) 耐ヒートストローク性 | ユシロ化学 細野 弘夫 |
| 3) 鋼用冷間圧延油のプレートアウト性と潤滑性 | 協同油脂 白田 昌敬 |
| 4) ステンレス用冷間圧延油 | 日本鉱業 八木政太郎 |

熱間圧延

- | | |
|---------------|-----------|
| 1) 熱間圧延潤滑 | 新日鉄 柴田 嘉基 |
| 2) 熱間圧延潤滑油の評価 | 東大 木原 諄二 |

定員 200名

参加費 主催，協賛学協会

正会員 5,000円，学生会員 2,000円

問合せ，申込先 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8

機械振興会館 407-2

日本潤滑学会 (電話 03-434-1926)

「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

テーマ：製鉄技術における最近の進歩

原稿締切日 昭和57年3月15日(月)

昭和55年11月号(第66年第13号)では，製鉄特集号として原料，操業，炉内解析にわたる成果をまとめ，好評を博しました。その後も，製鉄技術分野における技術の発展は，基礎および応用の両面にわたって目覚ましいものがあります。とりわけ，焼結鉄の基礎理論と製造技術における進歩，オールコークス操業技術の確立，装入物分布制御理論の進展と制御技術の定着，種々の観測技術の普及等々にそれを見ることができるようになります。さらに，エネルギー事情の多様な変化に対応して，トータル・コスト・ミニマムの視点からの技術評価にも大きな進展がみられるようです。

そこで，今回は，とくにこれらの視点を踏まえた特集を組んでみたいと思います。論文ならびに技術報告の両分野で，多くの御投稿を期待します。

記

1. テーマ 製鉄技術における最近の進歩
2. 原稿締切日 昭和57年3月15日(月)
3. 発行 鉄と鋼第68年第15号(昭和57年11月号)
4. 原稿枚数 表，図，写真を含めて所定の原稿用紙
 - 1) 論文 40枚以内(刷上り8ページ以内)
 - 2) 技術報告 35枚以内(刷上り7ページ以内)
 - 3) 原稿は本会寄稿規定に基づいて執筆下さい。
 - 4) 投稿された論文は編集委員会において審査されます。

5. 問合せ・原稿送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3F

(社)日本鉄鋼協会編集課特集号係 電話 03-279-6021

(注) 投稿時，原稿表紙に「製鉄特集号」と朱書して下さい。